

保健・福祉・子育て支援施設（仮称）の基本理念（案）【①上位・関連計画における位置づけ、現状】

0. 主な上位・関連計画における位置づけ

<p>■第6次総合計画（令和2年3月）</p> <p>「人がつながり幸せをつくる 快適未来都市」を将来像に掲げ、重点戦略「あらお未来プロジェクト」として「切れ目のない充実した子育て環境をつくる（妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、子育てしやすい環境づくり、魅力ある教育環境の実現等）」、「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる（健康長寿社会の実現、地域共生社会の実現、生涯学習の推進）」、「先進的で持続可能なまちをつくる（暮らしやすいまちの基盤の構築）」の位置づけ。</p>	<p>■立地適正化計画（平成29年3月）</p> <p>目指すべき都市像として「スマートコンパクトシティあらお」掲げ、人口減少が進む中で活力ある荒尾を維持するために市民が「しあわせ」を実感できる「人幸福増加都市」を目指している。</p> <p>荒尾競馬場跡地を含む荒尾駅周辺は中心拠点・都市機能誘導区域として、広域交流機能、健康・福祉・多世代交流機能、子育て支援機能、大規模商業機能などを誘導するエリアに位置づけられている。</p>	<p>■公共施設等総合管理計画（平成29年3月）</p> <p>都市機能再編に向けた立地適正化計画（平成28年度策定）と連携して、公共施設等の再編を効率的に行うとともに、都市機能の魅力向上を図るため、全市的な施設については、原則、荒尾駅周辺や緑ヶ丘地区周辺の中心拠点エリアへと集積を図ることとしている。</p> <p>また、保健センターと総合福祉センターは老朽化のため類似する施設等の集約化の可能性を検討するとしている。</p>	<p>■南新地地区ウェルネス拠点基本構想（令和元年8月）</p> <p>官民連携によるまちづくりや地区全体のブランディング、スマートシティの推進を軸に、競馬場跡地の南新地地区における「ウェルネス拠点」の実現に向けて、「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」をコンセプトとしている。</p> <p>移住/定住を促すターゲットとして、20～30代の女性（特に子育て世代）をメインターゲットとして設定し、道の駅、保健・福祉・子育て支援施設、温浴施設、運動施設、宿泊施設、アウトドア施設、馬事文化施設等の導入を計画している。</p>
--	--	--	---

1. 荒尾市の保健・福祉・子育てに関する現状と意見・提案

★：ウェルネス拠点、先進コア街区の他の施設との連携に関する意見

テーマ	現状（荒尾市の既往調査※、部内会議における意見より）	テーマ	部内会議における意見・提案
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代・20歳代の転出超過幅が大きくなっており、県内や福岡県への転出が多い。（第6次総合計画） ・若年層の特に男性が身体的・精神的ストレスを感じ、仕事や将来に対する不安、経済問題、人間関係が原因となっている。（健康増進計画） ・貧困線を下回る人の割合は11.8%、ひとり親世帯の貧困線を下回る世帯は31.9%（子どもの生活に関する実態調査） 	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設に10、20年後にも子育て世代や色々な世代がワクワクして繰り返し来てくれる夢と希望の施設となり、保健・福祉機能が移転し、子育て世代だけでなく高齢者についてもバランスが取れた3世代が関わる施設になると良い。3世代交流のあり方や仕掛けについては工夫が必要。
保健・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・福祉に係る各部署・機関が市内で離れた場所にある。 ・保健・福祉に係る健診や相談等は対面である必要がある。オンラインでの対応は難しい。 ・地域包括支援センターの執務室は本庁舎に配置される方がよい。また、認知症に関する相談はリモートでの画面を通しての対応は難しい。 ・現状は健診のために3時間待つ必要があり、新型コロナ対策としても良くない。待ち時間の短縮や案内時間をずらす等の対応が必要となる。 ・0歳児は医療機関で健診を行い、幼児は保健センターで集団方式で健診を行っている。 ・今の保健センターは暗い。来やすくなると良い。 ・全く運動していない人の割合が5割を超える。運動のために必要な環境について、「低料金で利用できる施設」、「指導者」、「運動プログラム」の回答割合が高い。（健康増進計画） ・男性の約30%、女性の21%が肥満。男性の40%、女性の20%が予備群。（食育推進計画） ・生活習慣病が増加し、健康寿命の維持が困難になっている。生活習慣病予防、介護予防が必要。（地域福祉計画） 	保健・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの予約システムを導入し、周辺施設で遊びや食事などで健診の待ち時間をつぶし、その後健診に行けると良い。 ・母親が日頃足を運ぶ中でこの施設に行けば相談できて、周辺でカフェやレストラン、公園等も利用できると良い。 ・福祉機能の充実が必要。 ・ITを活用した相談業務のワンストップサービスについて検討が必要。 ・現庁舎と施設の距離が遠いことへの課題解決策としてオンライン窓口があると良い。 ・行政機能を施設内に置く場合、現庁舎と施設の距離が遠いため対応が難しい。リモートでの相談窓口を設けられると良い。 ・スマホなどが使えない高齢者向けに、遠方の人とテレビ電話ができる等の通信サービスがあると良い。
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者福祉は、ふれあい福祉センターを拠点にしており、一部の機能はそこに残る予定で、本施設との棲み分けが必要。 	ICT等の活用・健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティとしてヘルスケアの機能を備えるべき。 ・健康推進アプリがあると良い。 ・ICTを活用し、ジムでの運動量やレストランでの栄養などの健康管理ができると良い。
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する子ども数より実際の子ども数が少ない人が4割となっている。また、子育てをしたいと思わない理由として「教育環境が充分でない」という回答が多く、幼児～高校教育までを見据えた、子育て支援と教育振興を一体的に推進する必要がある。（第6次総合計画） ・中学校におけるすべての課題で、全国と熊本県の正答率を荒尾市が下回っている。（第6次総合計画） ・子育て世帯の孤立化などを背景に児童虐待についての相談が増加傾向にある。（教育振興基本計画） ・子育てに関する悩みについて、「教育」が最も回答割合が高く、次いで「健康・発達」、「経済的負担」が高い。（子ども子育て支援事業計画） ・子どもを健やかに生み育てるために市に期待することは、「子育てのための経済的支援」の回答割合が最も多い。（子ども子育て支援事業計画） ・学習塾に通っている割合は、貧困線を下回る層は20%、その他は36.2%、通っていない理由を「経済的な負担がある」と答えた割合は、貧困線を下回る層は20.4%、その他は6%。（子どもの生活に関する実態調査） 	子どもの居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に走り回れると良い。道の駅が近く、道の駅の利用者も立ち寄り遊べる施設になると良い。★ ・アウトドアに子どもだけで遊びに来てもしニアが面倒を見てくれるようなシステムがあると良い。
子どもの居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の放課後の居場所が足りていない。家でも学校でもない場所が必要。 ・不登校などの問題を抱える子どもの日中の居場所が不足している。 ・保育園の待機児童が発生している。 ・療育サービスや放課後デイサービスはあるが、希望者の多さに対して事業者が対応できていない。 ・ファミリー・サポート・センター事業では、協力会員の高齢者等は自宅ではなく、保育園内の地域子育て支援拠点の部屋で子どもの預かりをすることが多い。 ・保育ニーズに対して保育所・幼稚園の供給が追いついていない。学童保育も同様。（子ども子育て支援事業計画） ・子どもだけで夜間に留守番をする頻度が高い人の割合は全体で9.4%（子どもの生活に関する実態調査） 	シニア世代の居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代が参加しやすいのは健康づくり。先進コア街区に誘致予定の運動施設と連携できると良い。★ ・本施設では後期高齢者に対する福祉・介護という側面よりも、アクティブシニアの健康増進や社会参画の方に重点を置きたい。 ・高齢者の健康・生きがいにつながる温浴機能が欲しい。 ・元気な高齢者は、潮湯や玉名温泉に行く。高齢者にとっては、温泉・温浴に加えて趣味の場があると喜ぶと思われる。先進コア街区内の温浴施設を利用できると良い。 ・社協が入り、相談コーナーが入ると良い。 ・シニアの社会参加の場、生きがいづくりの場になると良い。 ・高齢者の各地域での活動とは別に、アクティブシニアにはウェルネス拠点で社会参加に貢献してもらいたい。
シニア世代の居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・万田坑の案内は現在高齢者が行っている。 ・有償ボランティアもある。 ・高齢者からもカフェが欲しいという要望がある。 ・3地域に認知症の人やその家族、地域の人が自由に集える認知症カフェがある。 ・本施設と各地域の福祉関連施設や通いの場との機能のすみ分けが必要。 ・現在社会参加している高齢者はスポーツのコーチや防災ボランティアなど若い頃に出来なかったことをする傾向にある。 ・シルバー人材が活用できると良い。 	地域コミュニティとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や緑道との機能連携を図る。★ ・市内に芝生公園がないため、ウェルネス拠点の公園や芝生広場はグランドゴルフなどの拠点となりうる。★ ・校区対抗のグランドゴルフ大会を開催し、3世代での参加を条件とすると3世代交流が生まれる。
地域コミュニティとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の社会体育移行もあり、生涯学習ボランティアもいる。 ・万田小学校にグランドゴルフ部がある。グランドゴルフを通じてシニア世代との交流ができる。 ・周辺にも公園があるため、機能や利用者のすみわけが必要である。 ・地域活動に参加している人の割合が減少。地域コミュニティの運営が課題であり、あらゆる市民の地域共生社会の実現と市民の生きがいづくりが必要となる。（第6次総合計画） ・近所との世間話の機会がほとんどない人の割合が増加傾向にある。また、地域における活動の参加状況は、全体で4割、20歳代は8割以上が全くしていない。（健康増進計画） 	ウェルネス拠点との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・車中泊が流行っており、福岡と熊本の入り口として、RVパーク・オートパークを設け、デイキャンプができる場があると良い。★ ・コロナ対策として、サテライトオフィスがあると良い。企業誘致にもつながる。★ ・ネットワーク環境のそろったオンライン会議専用会議室があると良い。★

※第6次荒尾市総合計画（R2.3）、荒尾市健康増進計画（H28.12）、荒尾市食育推進計画（H23.3）、荒尾市地域福祉計画（H30.1）、荒尾市教育振興基本計画（H29.3）、荒尾市子ども子育て支援事業計画（H27.3）、荒尾市子どもの生活に関する実態調査報告書（H30.11）

保健・福祉・子育て支援施設（仮称）の基本理念（案）【②課題、コンセプト・方向性】

2. 解決すべき課題

●健康の維持・予防

運動していない人の割合が増え、生活習慣病の増加に伴い健康寿命の維持が問題になっている。

●保健・福祉サービスの最適化

保健・福祉施設が分散しているとともに老朽化しており、保健・福祉施設の統廃合を通じて各施設の機能の棲み分けと連携を図り、市の保健・福祉サービスを最適化する必要がある。

●地域コミュニティの希薄化

近所との世間話がほとんどない人の割合が増加傾向にあるとともに、地域活動に参加する市民の割合が減少傾向にあり、社会的孤立が進み地域コミュニティでの共助が希薄化している。

●シニア世代の居場所

高齢者に対する福祉的サポートは比較的充実している一方で、スポーツやボランティア活動をするアクティブシニアにとっての居場所や社会参加の場が不足している。

●親にとっての子育て環境

経済面や子どもの教育・発達面など、子育てに対する親の不安が多くあり、ストレスとなっている。

また、親が日頃ストレスを発散できる場所が少ないことも課題となっている。

●子どもの居場所

保育園の待機児童の発生や、小中学生の放課後の居場所不足など、子どもの居場所が足りていない。療育サービスや放課後デイサービスもあるが、希望者の多さに対して事業者が対応できていない。

3. 本施設のコンセプト・方向性

コンセプト：

**心身の健康と地域の幸せを育み、
子どもの成長や子育てを支援する拠点**

市民の健康づくりの拠点とするとともに、子どもから高齢者まで生きがいを持って生活でき、子育て世代が「荒尾市で子育てをしたい」と思える拠点を形成する。

【目指す方向性】

①市民が心身ともに健康・健幸になれる拠点

- 市民が健康管理意識を高めながら、健康に関する支援を受けられる拠点を形成する。
- 先進コア街区の他の施設・機能と連携し、食や先進技術も活かして楽しみながら健康・健幸になれるエリアを創出する。

②市民と地域のつながりを支える拠点

- 生活や子どもの成長、発達のサポートを必要とする市民への支援の拠点となり、市民全体が社会から孤立しないための活動・支援を行う。
- 高齢者をはじめとする地域の人材が、様々な活動を支える側となり社会参加できる機会を提供することで、地域や多世代の交流を促す。

③親と子どもをすこやかに育む拠点

- 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を通して、子育てに関する親の精神的負担を軽減し、安心して子育てできる環境を提供するとともに、荒尾市で子育てをする魅力を創出し、子育て世代の定住・移住につなげる。
- 子どもの多彩な力を伸ばし、子どもにとっての居場所と、親にとって子どもの成長を感じられる安心感を提供する。

運営の方向性

市民が行政サービスを受けやすく、 コミュニティが支える拠点

- 保健・福祉機能を集約し、健康づくりや子ども・子育てに係る行政サービスをリモートやAIによる自動相談など、AI/ICT技術等の活用によりワンストップで受けられるようにする。また、市内の他の保健・福祉・子育て関連施設等と連携することにより市の保健・福祉・子育て支援サービスの最適化を図る。
- 多様な人材や団体が関わり、地域や多世代の交流によるコミュニティに支えられた施設運営を目指す。

4. 本施設のターゲットと効果

市民

健康の増進を支援

地域福祉の充実

生活習慣病の増加により、健康寿命の維持が難しくなりつつ、要介護者も増加している。こうした病気等になる前の市民の健康を維持することが重要となっている。こうした市民の健康増進を目的とした運動機能の導入や行事・イベントを行い、市民の将来的な健康寿命の増進を図る。

また、様々な悩みや支援を必要とする市民の相談をワンストップで対応し、地域の支え合いや見守りなど地域福祉の充実を図る。

高齢者

社会参加の機会を提供

近所での助け合いや会話、地域活動への参加率が減少し、地域コミュニティの希薄化が問題となっており、特に若い世代に傾向が強く出ている。一方、高齢者の生きがいとなる活動の場の提供も重要となっている。

こうした現状から、アクティブシニアをはじめとした地域の人材を活かし、様々な活動を支援することにより、高齢者の居場所や生きがい、コミュニティの形成を促進する。

支援・交流

子育て世代（親・子）

子どもの成長を支え、
子育ての負担を軽減

子育て世帯の孤立化等を背景として、子育てに対する負担や悩みが増大している中、親の自己肯定感を向上し、子育てに対する負担を軽減し悩みを解消するような支援が必要である。

そこで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うとともに、子育てに関する情報提供を行い、子どもの発達を実感できるような相談支援などを行うことで、親の子育てについての不安を払拭し、満足度や自己肯定感を高める。

また、子育て中の親子や地域や多世代の人が気軽に集い、相互交流ができる場や機会を提供することにより、周囲から孤立することなく安心して子育てできる環境整備を図る。

5. 市内関係施設の機能と、本施設の役割

第1回検討委員会におけるご意見

